

新県立中央図書館整備事業設計業務委託に  
係る公募型プロポーザル

審査報告書

令和4年3月

新県立中央図書館整備事業設計業務委託に係る  
公募型プロポーザル審査委員会

令和4年3月  
新県立中央図書館整備事業設計業務委託に係る  
公募型プロポーザル審査委員会

委員長	長谷川 逸子
副委員長	北山 恒
委員	千葉 学
委員	貝島 桃代
委員	古瀬 敏
委員	岡本 真
委員	是住 久美子
委員	難波 喬司

## 1. 審査結果

本プロポーザルについて、新県立中央図書館整備事業設計業務委託に係る公募型プロポーザル審査委員会（以下、「審査委員会」という。）が審査した結果、次の通り、最も優れた技術提案書（2次）等と次順位の技術提案書（2次）等を特定しました。

(1) 最も優れた技術提案書（2次）等

「参加者番号 022 C+A・アイダアトリエ・日建設計（エンジニアリング）設計企業体」  
～図書館建築多文化共生宣言～

(2) 次順位の技術提案書（2次）等

「参加者番号 012 株式会社妹島和世建築設計事務所」  
～静岡の未来を担う文化創造の丘陵～

## 2. プロポーザルの経過

実施内容	実施期間
本プロポーザルの公告	令和3年10月1日（金）
本実施要領及び資料の交付開始	令和3年10月1日（金）
質問書の受付（質問受付）	令和3年10月4日（月）から 令和3年10月15日（金）まで
質問書の回答（1回目）	令和3年10月20日（水）
「新県立中央図書館の概念図」を追加添付	令和3年10月20日（水）
質問書の回答（2回目）	令和3年10月22日（金）
質問書の回答（3回目）※回答期限日	令和3年10月29日（金）
実施要領の修正（協力事務所の制限緩和）	令和3年10月29日（金）
質問・回答書の補足説明（エリア区分位置について）	令和3年11月2日（火）
参加表明書の提出期限	令和3年11月5日（金）
技術提案提出書（1次）等の受付	令和3年11月15日（月）から 令和3年11月19日（金）まで
参加資格を証する書類（入札参加資格認定通知書の写し以外）の提出期限	令和3年11月19日（金）
1次審査（技術提案書（1次）等の審査）	令和3年12月2日（木）
1次審査結果通知	令和3年12月3日（金）
参加要件審査結果の通知（随時審査）	令和3年12月3日（金）まで
1次審査における付帯質疑	令和3年12月20日（月）
参加資格を証する書類（入札参加資格認定通知書の写し）の提出期限	令和4年1月17日（月）
技術提案書（2次）等の提出依頼とプレゼンテーション及びヒアリングの参加要請通知	令和4年1月20日（木）

技術提案提出書（2次）等の受付	令和4年 2月 2日（水）から 令和4年 2月 8日（火）まで
2次審査（プレゼンテーション及びヒアリング）	令和4年 2月 19日（土）
2次審査結果の通知	令和4年 3月 2日（水）
審査結果の公表	令和4年 3月中旬

### 3. 新県立中央図書館整備事業設計業務委託に係る公募型プロポーザル審査委員会委員

分野	区分	氏名	所属・職名
建築	委員長	長谷川 逸子	長谷川逸子・建築計画工房（株）代表取締役
	副委員長	北山 恒	横浜国立大学 名誉教授
	委員	千葉 学	東京大学大学院工学系研究科 教授
	委員	貝島 桃代	スイス連邦工科大学チューリッヒ校 教授
図書館 等	委員	古瀬 敏	静岡文化芸術大学 名誉教授
	委員	岡本 真	アカデミック・リソース・ガイド（株）代表取締役
	委員	是住 久美子	田原市図書館 館長
	委員	難波 喬司	静岡県 副知事

### 4. 審査の経過

#### (1) 第1回審査委員会

日時：令和3年9月1日（水）15:30～17:30

場所：WEB会議にて開催

委員：7名出席

概要：委員長、副委員長が互選され、プロポーザル実施要領などについて審議を行った。

#### (2) 第2回審査委員会

日時：令和3年12月2日（木）10:30～17:30

場所：静岡県庁別館9階特別会議室＋WEB会議

委員：8名出席（内、2名WEB参加）

概要：1次審査を行い、技術提案書（1次）等の提出者21者のうち、6者を一次通過者として選定した。

#### (3) 第3回審査委員会

日時：令和4年2月19日（土）10:50～20:00

場所：グランシップ（静岡県コンベンションアーツセンター）910会議室

委員：6名出席

概要：公開プレゼンテーション及びヒアリングの実施後、非公開で2次審査を行い、最も優れた技術提案書（2次）等と次順位の技術提案書（2次）等を特定した。

## 5. 審査結果の詳細

### (1) 1次審査

#### ア 評価基準

審査委員会は1次審査で提出された「技術提案書（1次）」及び「実施方針書【コスト管理】」を新県立中央図書館整備事業設計業務委託に係る公募型プロポーザル評価要領（以下、「評価要領」と言う。）に基づき評価を行った。

#### イ 審査結果

参加者番号 001、007、010、012、021、022 の6者を選定し、その結果を県に報告した。

### (2) 2次審査

#### ア 評価基準

1次審査で選定された6者から提出された「実施方針書」及び「技術提案書（2次）」について、公開プレゼンテーション及びヒアリングを実施したうえで、評価要領に基づき評価した。

#### イ 特定結果

最も優れた技術提案書（2次）等及び次順位の提案書（2次）等を特定し、その結果を県に報告した。

<最も優れた技術提案書（2次）等を提出した者>

参加者番号 022 C+A・アイダアトリエ・日建設計（エンジニアリング）設計企業体  
～図書館建築多文化共生宣言～

<次順位の技術提案書（2次）等を提出した者>

参加者番号 012 株式会社妹島和世建築設計事務所  
～静岡の未来を担う文化創造の丘陵～

#### ウ 採点結果

参加者番号	021 番	001 番	007 番	010 番	022 番	012 番
実施方針書	20	15	15	15	20	15
評価テーマ1	8	8	8	8	8	8
提案テーマ2	8	12	12	8	12	12
提案テーマ3	8	8	8	12	12	12
提案テーマ4	8	8	8	8	8	8
提案テーマ5	8	8	8	8	8	8
合計	60点	59点	59点	59点	68点	63点

## 6. 審査講評

審査においては、2次審査の審査要領に掲げられた5つのテーマ、テーマ1：県民の誇りとなる外観・内観デザイン、テーマ2：21世紀の知の発信拠点となる図書館計画、テーマ3：県民にやさしく、使い勝手のよい施設計画、テーマ4：脱炭素社会の実現に向けた環境にやさしい施設計画、テーマ5：概算工事費の合理性と設計時における建設コストの管理を軸として評価が行われた。それぞれの設計チームが、本プロポーザルの趣旨に真摯に向き合い、熟考された提案が提出されたこともあって、厳しい議論が交わされた。こうした議論の末、最も優れた技術提案書（2次）等、次順位の技術提案書（2次）等が導かれた。各案に対する講評は以下の通りである。

### <最も優れた技術提案書（2次）等>

「参加者番号 022 C+A・アイダアトリエ・日建設計（エンジニアリング）設計企業体」  
～図書館建築多文化共生宣言～

本事業の趣旨を丁寧に読み込み、多様なメディアを収集する現代の図書館の問題に正面から取り組んでいる提案であり、要求された機能を垂直方向にも適切に配置することを通じて、魅力的な機能連関が実現されている。

平面構成でも、ラボ・セミナールーム・屋外テラス等が相互に連携し、分かりやすく配慮されたエントランスや閲覧室など、利用者の視点に立って施設構成が整理され、使いやすい空間としてまとめられていることが評価された。1、2階がコンパクトにプランニングされ、無駄のない構成となっている点など、全体に合理性と経済性を真摯にとらえようとする態度も好感を持って受け止められた。「新しい図書館」を創造的な学びの場としてとらえるなど、優れた教育施設の実績を有する設計チームの経験が反映されている意欲作である。

一方、上層に積層された書庫のファサードについては、その効果について更なる精査が必要ではないか。1階についても、想定される多様な使われ方に対応できるよう、もう少し冗長性を持つ解法もあり得るのではという意見も出された。アーバンデザインの観点、静岡らしさの観点から、街に対してその寄与をさらに踏み込んで提示すべきではないかという意見も出された。

しかしながら、各機能の整理と全体を統合する空間構成の練度は高く、都市的な課題や静岡らしさといったテーマについても、今後発展させていく可能性を十分に有していると評価され、最も優れた技術提案書（2次）等に推されることになった。

### <次順位の技術提案書（2次）等>

「参加者番号 012 株式会社妹島和世建築設計事務所」  
～静岡の未来を担う文化創造の丘陵～

グランシップという巨大公共施設に対峙するとともに、様々な都市要素が混在する難しい敷地環境を巧みなボリュームの調整と形態操作で独創的な図書館を作り出している。単一の素材ではなく、複数の素材を組み合わせるなど素材への配慮や外部環境に呼応した特徴的な閲覧室など空間を丁寧に創出しようとしている点、秀逸な方法で捉えた敷地のポテ

ンシャルを建築形態や施設機能と巧みに連坦させている点などが評価された。

一方、1階に書庫が置かれていることに対する地上部での内外の連関、さらには浸水リスクに対する対応などについて懸念する意見があった。また、積層した各層を機動的に連関させるためには、閲覧室・書庫・エレベーターなどの位置関係にもう少し工夫が必要ではないかといった評価も出された。外装に対する配慮は巧みではあるが、全体的にガラスが多用されている点について懸念を呈する声も見られた。

動線計画や地上階における賑わいに関するリスクの存在によって、最も優れた技術提案書（2次）等に届かないのではないかという評価に帰結することになった。

以下は公開プレゼンテーションにおける発表順である。

「参加者番号 021 石本・畝森・針谷設計共同体」

～PORT：情報の海の確かな拠点 「小さなコト」がつくる新しい地形～

基本構想等を踏まえて、適切な機能構成を実現しているほか、図書館アドバイザーを設計チームに導入するなど、チーム体制においても実現性を勘案しており、全体的に完成度の高い提案として評価された。

一方、低層にしていることで平面移動が容易な反面、広くなる各階をうまくナビゲーションする工夫や空間体験の豊かさについて、より踏み込んだ解法が必要であるとの意見が出された。1階と2階の構成が大きく異なっているが、その設計意図についても共感がいまひとつ広がらなかった。駐車場についてもユニークな工夫がなされている点については評価された半面、施設本体との関係性やコストやメンテナンスの課題の存在などの懸念も提示された。また、地盤の悪い敷地において建築面積を大きくすることの効果についても十分ではないと評価された。提案書に提示されている「新しい静岡らしさ」が具体的に何を指すのかという指摘もあった。

「参加者番号 001 有限会社マル・アーキテクチャ」

～みんなで創りつづける「文化の地形」としての図書館～

活動の発展を評価し、その発展を仕掛けるフロアとしてアクティブプレートという概念が提示されている点は、新しい図書館としての機能を提示したものであり、この建物を訪れる市民との多様なコラボレーションの場として期待されることから、評価高く好意的に受け止められた。

一方、アクティブプレートが建築要素としてどのように収まり、空間体験を魅力的にするかといった点について、様々な懸念が示された。また、アーカイブコアの部材のプロポーシオンやアクティブプレートの緊結方法などが必ずしも明快にされておらず、具現化の過程で部材の追加やプロポーシオンの変更など、提示されている案の魅力となっている要素が減る可能性が高いことも指摘された。

「参加者番号 007 株式会社平田晃久建築設計事務所」

～四角い雲を浮かべる～

新しい図書館とは何かという大きな問に取り組んで、クラウドと呼ばれる独創的な大空

間が提示している点は、高く評価された。ガラス張りの提案が多い中において、細部まで検討しながら、人々が本と向き合うときに求められる理想的な空気感のようなものを真摯に追い求めており、審査においても好感を持って受け止められた。平面形状も良く練られており、良好な使い勝手が想定される点も評価された。

一方、その大空間をつくる必然性について一部の審査委員から疑念が示された他、外壁の耐久性や矩計図の実現性など技術面での懸念も提示された。深い森や太陽のリズムというキーワードが、どのように具現化しうるのかという点についても、残念ながら確信を得るにはいたらなかった。

「参加者番号 010 遠藤克彦建築研究所・RIA 設計共同体」

～人々の多様な活動そのものが駅前の魅力的な景観となる、静岡の水と光と風を感じる「知のターミナル」～

合理的な建築計画に則って構成されているほか、技術的な面についての提案も明快であり、現実性に留意した優れた提案と評価された。

一方、コンセプトのカギになるナレッジボイドには動的な空間だけではなく、かなりの表面積で閉架書庫、事務室、トイレ、倉庫などが配されており、提案者が説明するようにこの吹き抜けが、インタラクティブな関係を生み出す起点となりうるかについては、もう少し発展が必要ではないかという意見が示された。また、訪問者が正面性を期待するデッキの接続方向と建築的ボリュームの向きが整合していないのではないか、バイオフィルターと呼称される外装材が作り出す外観が周辺環境と適切な関係を構築しているのだろうか、といった懸念も提示された。

令和4年3月

新県立中央図書館整備事業設計業務委託に係る  
公募型プロポーザル審査委員会